

スタート・ダッシュ



法学部長

ながい
永井
かずゆき
和之

新入生の諸君、諸君は今何を考えていますか。

諸君が今考えなければならぬことは、今後の大学生活をいかに意義あるものとするかといつことであって、入試の結果など過去のことであってはならない。大学4年間などは「光陰矢の如し」と考えて欲しい。

とすれば、諸君に次の二つをいいたい。まずは大学4年間を終了して卒業するときの自分を想像して逆算し、大学4年間の生活設計をしっかりとすること。

例えば、最初の1年間をあらゆることへの挑戦に向けて欲しい。その中で自分の中に何かをしっかりと掴まえて欲しい。

その1年目に掴んだものへの着実な前進の助走、それが2年目である。

ここで基礎をしっかりと構築しなければならぬ。基礎のないところには、「空中楼阁」しかできない。夢があっても夢想の段階でしかない。この基礎段階は地味な雌伏の時期でもある。将来の飛躍にじつと力を蓄えるのである。

3年目以降は、その発展段階である。基礎的な力を応用してみる段階である。そこは色々な経験を積む演習の段階であろう。その演習が多様な思考力や、人間的な幅を広げ、豊かな人格を形成することになる。

もう一つは、自己の無限の可能性を信じて欲しい。信じて行動して欲しい。人生これからの君たちには、24時間思いきり色々なことを勉強して欲しい。法学部はそんな諸君の応援をしていきたいと考えている。

頑張ろう。

自分の可能性を広げよう



経済学部長

こぐち
小口
よしあき
好昭

皆さん、ご入学おめでとう。ご父母の皆様にも、心からお祝い申し上げます。

中央大学は、全国各地から個性豊かな学生が集う、いわゆる全国型の大学です。入学してまず第一に実感する高校との違いは、交友範囲が一挙に全国規模に広がることではないでしょうか。もちろん、地方出身の学生諸君にとっては生活自体が一変します。

ですので、とまどいも大きいことでしょうが、新しい生活への期待もまた大きいはずですよ。私は、1966年に中央大学に入学しましたが、栃木県の小さな町の男子校から出てきて、はじめは本当に無我夢中だったことを思い出します。まずは、健康に注意して新しい環境に慣れてください。

さて、経済学部は、中央大学に設置されている6つの学部の内、法学部に次ぐ伝統があり2005年に学

部創設一〇〇周年を迎えます。その時は、皆さんと教職員、一丸となって祝いたいと思います。このような長い伝統を持つ経済学部は、冷静な思考力と温かい心を持った国際的な経済人であるとともに、良識ある市民の養成を目標にしています。

経済学は、人間活動そのものに関わる学問です。経済学部ですから、経済学に関連する専門科目を大いに学修し、国際的に活躍できる経済人になって欲しいと思います。しかし、それにもまして、市民としての健全な価値判断を養って欲しいと願っています。良識ある市民として自立することがいかに重要であるかは、昨今の社会情勢を見れば明らかです。経済学部は、この教育目標を実現するために一〇〇名に上る多彩な分野の専任教員を擁しています。皆さんは、経済学部そして中央大学が持っているあらゆる資源を十分に活用し、自分の可能性をどんどん広げるとともに、学ぶことの大切さと楽しさを実感してください。

「自分さがし」のための勉強をしよう



商学部長

御船 洋
みふね ひろし

新入生のみなさん、「ご入学おめでと
うございます。

ところで、早速ですが、みなさんは
中央大学に何しに来たのでしょうか。
こつ聞かれると、みなさんは、何をば
かなことを言っているんだ、この人は
と思いつつも、勉強しにきました、と
答えるでしょう。当然の答えです。

では、何のために中央大学で勉強
するのですか、という問いには、どう
答えますか。資格試験や公務員試験
などを目指している人は即座に答えら
れるでしょうが、そうでない人はなか
なか答えにくいのではないのでしょうか。
そこで、そういう人に、私から目
標を授けましょう。これは決して大
きなお世話にはなりません。必ず、
みなさんのためになります。それは、自
分とは何かを見つげる」ために勉強す
るといふことです。気取って言えば「自
分さがし」、平たく言えば「自分の能

力や適性に気付き、それを伸ばすこ
と」です。漫然と四年間を過すの
は最悪です。ただ与えられた授業科
目を次々に消化していくだけという受
身の勉強をしたのでは全く無意味で
す。人生の最も輝いている時期、頭脳
も体力も気力ももっとも充実したこ
の時期に、自分と真剣に向き合い、自
分の力を自分で見つけ、自分で鍛えて
おくことはとても大事なことです。

「自分さがし」の結果、自分の関
心のありかがはつきりわかり、能力や
適性がかめたとすれば、勉強のしか
たが変わってきますし、将来の進路を
どうするかといった風に話が進んで
行きます。将来の進路に「ついて、たと
えば商学部では「キャリア・デザイ
ン・プログラム」を用意して、そのよ
うな学生にさまざまな支援や情報提
供を行っています。
「自分さがし」がうまくいきます
よう、祈っています。

心に刻みつける4年間を



理工学部長

風間 重雄
かざま しげお

中央大学理工学部は、皆さんを新
しい仲間として心より歓迎します。

今皆さんは、ある種の解放感を身
に染みて味わっていることでしょう。そ
の新鮮な気持ちをごこれから4年間、
ずっと持ち続けてほしいと願っています。
ちよつと皆さんの年頃というものは、人
生の中で最も感受性に富み、知識の
吸収力も一番すぐれている時です。
「聞いても聞かず、見ても見ず」とい
うのではなく、毎日毎日を心に刻みつ
けて歩む4年間であってほしいと願っ
ています。

「心に刻む」といふのは、暗記し
たり覚えたりすることは異なつた、
より深い精神の営みです。皆さんの五
感を総動員して身の回りのことを一つ
ひとつ心に刻みつける。授業の一齣ひ
とこまを心に刻みつける。友人と過
す時間の一瞬一瞬を心に刻みつける。
先生との出会いの一つひとつを心に刻
みつける。テレビを見たり、ビデオを

見たり、そして時には、ゲームに興
じる。そうしている自分自身の姿を心に
刻みつける。

皆さんがこれから、このようにして
「心に刻みつける」4年間を過ごすな
らば、4年後の春この場所で、皆さん
は、びっくりするほど大きく成長した自
分自身に出会うことになるでしょう。

これからの4年間、「この社会はこれ
まで以上に科学技術に依存した社会
に変貌していることでしょう。いま使
われているパソコンやケータイもつく
の昔に博物館入りしているに違いあり
ません。そのような科学技術社会に
あつて、理工系の大学に学んだ人たち
に期待される役割には大きなものが
ありますが、科学にしても技術にし
ても人間の営みであることをしっかり
理解していただきたい。その理解に基
づいてこそ、皆さんは期待に応えてい
くことが出来ます。そして、そのた
めにこそ、この4年間を心に刻みつけ
る青春のひと時としていただきたいと
願っています。

有意義な大学生活を



文学部長

まつお まさひと
松尾 正人

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。苦しかった受験勉強に別れをつけ、ほっとしている皆さんが多いのかもしれない。また、大学での生活に慣れず、次の目標が浮かばないままに、いささか不安な気持ちがあるのかもしれない。

大学は、いつまでもなく幅広い教養を身につけるとともに、専門的知見を培うところです。実社会と異なつた場で、さまざまな知識を蓄え、自由に物事を考え、グローバルな視野に立つて模索することができ、また専門分野を研究することで、学問の重要さ、面白さを知ることができます。

そのためには、何ごとに対しても、失敗を恐れず積極的にチャレンジして下さい。文化や運動に関係したサークル、NGOのような社会と結びついた活動、国内はもとより海外にまで足を延ばした旅行なども良い

でしょう。また、専門分野の書物を読破し、フィールドワークにまで視野をひろげることができ、広大なキャンパスは、多摩に文系の五学部、後樂園に理工学部があります。六学部と大学院の三万の学生を擁する中央大学は、実に多彩な顔を持ち、出会いの場として有効です。各専門分野の一流の教授陣は、皆さんとともに学び、さまざまな疑問や問いかけに対しても、良い相談相手となつてくれるでしょう。

大学時代は、過ぎてしまつと、あつという間だつたように感じられます。しかし、その数年間は、人生の最も輝かしい時代であり、将来に向けた貴重な糧を得る機会があるように思います。はるか以前に学窓立つた卒業生と話をかわすと、学生時代がつい昨日のことのように語られます。皆さんが学生時代を有意義に過され、充実した成果を得られることを、お祈りしています。

明日の学問を目指せ



総合政策学部長

はやし しゅういち
林 昇一

めでたく中央大学にご入学できたことを心からお祝いたします。鉄は熱いうちに打てと言います。4年間の過ごしかた（ビジョン）を粗くてもリッスンすることを勧め、お祝いの言葉に代えたいと思います。

まず4年後の日本はどうなっているのか。中国の発展はどこまで進むのか。この点は、4年後の就職率や社会一般の失業率や雇用形態の状況と密接に絡んでくることは間違いありません。それと皆さんの将来とがどのように絡んでくるか、自らのポジションをどう定めるか。つまり4年後の日本の状況について、「自分はどのように考える」という仮説を立てて、「それならば何をめざすか、自らの存在価値を高めてはなりません」。

人間の生き方（つまり学問の仕方）には、3通りあります。一つは、過去志向型、二つ目は現在志向型、最後の3番目は未来志向型です。過去志向型は、生活のほとんどを過去を

向いて学問する生き方です。「あの大学に合格していたら」から始まり、最後は「生まれた家も時代も自分には気に入らない」というものです。いつも後ろを向いて明日を学問しようというタイプです。「二番目の現在志向型は、今日を楽しく過すことに専念します。今日という時間の消費者です。三番目の未来志向型は、いつまでもなく明日を大事に過します。明日がどうなるか仮説を立て、その仮説に基づいて今日なにをなすべきか、明日の創造のために時間を生産的に使います」。

この先、グローバル化の波は容赦なく日本全体を揺れ動かします。日本の国際競争力の比較劣位化は急速に進んでいます。そして今なお日本の競争力の劣化は続き底がみえませんが、中央大学の存在価値は、それなくして日本の中心は空洞化する、と云つても過言ではない歴史的な重みがあります。どうかこの伝統を受け継いで、明日の学問を目指すことを期待しています。